

フィッシュ・東光・厚子さんによる抗議声明

先日、道ばたでマスクをしていない家族とすれ違いました。私が「マスクはどうしたんですか？」と尋ねると、父親が厳しい口調で「国に帰れ！」と私に向かって言いました。また、別の日には自転車に乗った女の子に後をつけられ、どこに住んでいるのかと尋ねられました。私が自分の家を指さして玄関に向かっていくと、「あんたはこの国に住むべき人でないでしょ！」と言われました。

私は日本出身で、妊娠7か月で40歳だった1983年に、夫と3歳の娘と一緒にボストンに移り住みました。私はアメリカで築いてきた生活に誇りを持っています。そして、私はアジア人女性として、そしてまた日本の武家の子孫として、自分が受け継いできた文化と歴史に誇りを持っています。私たちアジア人に向けられた暴力—特に女性や若者、そして高齢者に対する暴力—に強く抗議します。共に声を上げ行動を起こしましょう。そのために、このメッセージを書く決断をしました。

夫のラリーと共に、フィッシュ・ファミリー財団を米国マサチューセッツ州ボストン市で1999年に立ち上げました。財団では、マサチューセッツ州に住む移民の支援、社会的困難な状況に置かれているハイリスクな若者支援、そして日本の女性リーダー育成事業をしています。特に移民支援は、私自身が移民であることから、非常に重要な支援です。日本の女性リーダー育成事業では、100名以上の卒業生を輩出しました。彼女たちは、社会変革に向けて大きな成果を上げている非営利活動に従事する女性リーダーたちです。また、Asian Task Force Against Domestic Violence (ATASK)で理事長を10年間務め、ドメスティック・バイオレンスなどの暴力被害を受けたサバイバーのアジア人女性や子どもの支援をしてきました。ATASKの職員やクライアントとの活動経験は私にとっての貴重な経験となっていますが、それは同時にこの国に刻まれた構造的な人種差別とジェンダーに基づく暴力の歴史を思い起こさせるものでもあります。

アジア人女性として、私自身も路上やその他の場所で人種差別の対象になったことがあります。こうした経験の根底にあるのは、女性蔑視と、アジア人女性を過剰に性的対象とみる差別的意識です。同じアジア人の女性として、私はみなさんに呼びかけます。今がまさにこの沈黙を破る時です。現状を打開し、この問題について広く世界に知らしめる機会なのです。私たちは今、未来を変える力を持っています。その力を発揮し声を上げましょう。若い女性や女の子のロールモデルとして、私たちのルーツと豊かな文化を誇りに思っていることを身をもって示すのです。アメリカは、誰もが歓迎され、成功する機会が与えられる国なのだから。

共に行動を起こしましょう。私たちは今、歴史を作り、未来を変えようとしています。私たちは変化をもたらすことが出来るのです。We can make a difference!

フィッシュ・ファミリー財団共同創設者
JWLI エコシステム創設者
厚子・東光・フィッシュ

Statement by Ms. Atsuko Toko Fish

Recently, out for a walk along a narrow road on Cape Cod, I passed a family wearing no masks. I asked them, "Where are your masks?" The father turned to me and said harshly, "Go home." On another occasion I was out walking, followed by young girl on her bike. She asked where I lived, so I pointed out my house. As she stopped and watched me go towards my front door she said "No. You don't belong here."

My name is Atsuko Toko Fish. I am originally from Japan. I came to Boston in 1983 when I was 40 years old and 7 months pregnant, with my husband and 3-year-old daughter. I have been fortunate and am proud of the life I have created in the U.S. I am also proud of my legacy as an Asian woman and a descendent of a Samurai family. I strongly condemn anti-Asian attacks targeting our community, especially women, youth, and the elderly. I am writing this letter to urge you to use your voice and stand with me in collective action.

My husband Larry and I created a family foundation in 1999. The Foundation serves immigrants in Massachusetts, an area I care deeply about as an immigrant myself; high and proven-risk youth; and leadership development for women in Japan. In Japan we have over 100 alumnae. They are women non-profit leaders making major strides towards social change. In my 10-year role as chair of the board of the Asian Task Force Against Domestic Violence (ATASK), I have served Asian women and children who were survivors of domestic violence and other forms of violence. I treasure my work with ATASK's staff and clients, but it is a reminder of this country's long history of systemic racism and gender-based violence.

As an Asian woman, I too have been a target of discrimination and racism. On the street and in the workplace. These experiences are deeply rooted in misogyny and hyper sexualization. My fellow Asian women, this is our chance to break our silence. We must use this moment for good, as an opportunity to raise awareness of this issue. We now have the power to change the course of our future and respond. Let us speak up and show our strength. As role models to girls and young women, we must teach by example and show how proud we are of our heritage and rich cultures. America is the land of opportunity, a place where we are welcomed and have a chance to thrive.

I urge you to join me in collective action.

We can make a difference in our future together.

Atsuko Toko Fish
Co-Founder, The Fish Family Foundation

フィッシュ・東光・厚子 Ms. Atsuko Toko Fish さんプロフィール

深い愛情とゆるぎない信念と情熱でさまざまな社会活動に携わっている女性です。1999年に創立した、ボストンにあるフィッシュ・ファミリー財団は、現在、移民、危険にさらされている若者、メンタルヘルスに苦しんでいる人々を支援することに焦点を当てています。2006年には、JWLI（日本の女性リーダー育成事業）をスタートしました。（前述）また、3.11をきっかけに、日本災害救援基金ボストン（JDRFB）を設立し、東北の即時および中期的な回復を支援するため、被災地域を数回にわたって訪問しました。基金が活動していた2年間で、JDRFBは約100万ドルを調達し、東北で直接活動している19の組織とプロジェクトに24の助成金を配布しました。

さらに、10年以上にわたってドメスティック・バイオレンスに対するアジアタスクフォース（ATASK）の理事長、およびシモンズ大学の評議員を務めました。そのほか、ボストン財団（TBF）、HANDS（健康開発サービス）、ジャパン・ソサエティ・オブ・ニューヨーク（JSNY）、および健康管理科学（MSH）の理事も務めました。彼女は現在、ボストン美術館（MFA）の監督者、およびバークリー音楽大学の諮問委員会メンバーを務めています。

以上の日米友好を促進した功績が認められ、2012年、日本政府外務省から外務大臣表彰を授与されました。さらに2013年には、ホワイトハウスからその功績（JWLIを通じた女性のエンパワーメントや東日本大震災直後の支援活動など）を称えられ、Champion of Challenge 賞**を授与されました。そして、2018年11月には日本の社会セクターにおける女性のリーダーシップの向上に貢献したことで、旭日小綬章を授与されました。

** <https://obamawhitehouse.archives.gov/champions/aapi-women>